

優秀賞

一戸建ての住宅／沖縄県名護市

ハウス・オブ・クリエイターズ

構造	在来工法（木造）
階数	地上1階
敷地面積	858.48㎡
建築面積	387.55㎡
延べ面積	244.12㎡
竣工年	令和5年



設計担当者 宮内智久

（株）宮内智久建築都市研究所
一級建築士事務所、東京建築士会

共同設計者 鈴木健

鈴木健構造設計事務所



屋我地島から羽地内海、遠目にヤンバルの自然を望む



ヒンブンの現代的なつくりかたとして蛇籠を使用



集落の風景を後世に残していくことを目指した

選 評

沖縄植生の樹木のある細い道を進み、開けたところにこの沖縄家屋が現れた。力強く大きな沖縄赤瓦の屋根。石垣に見立てた蛇籠の擁壁、そしてヒンプン。建物はシンプルな赤瓦の切妻屋根がコの字型で南に開き、ヒンプンを芯にして左右対称。ヒンプンが結界をつくってくれることで中庭含めこの住宅が守られている感がある。シンプルな切妻の基本架構、そこから奥行3尺の下屋がつくる軒下空間は中庭に向けたアマハジ。ここで床に腰を下ろせば、ある時は観客席のように中庭を観ることができる。

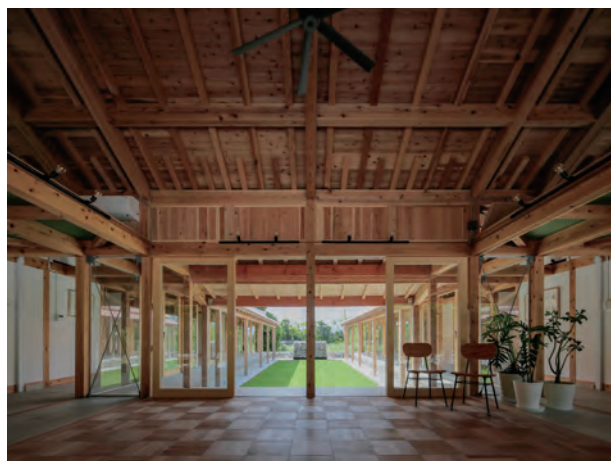
第一印象の沖縄家屋らしさは瓦など素材だけでなく、架構の中に生まれる屋根のある外部空間—アマハジがつくる影の

ある表情によるものだった。建物の裏にあたる北のアマハジからは、この家のすまい手のほか、この集落の友人やその子どもたち、それに全世界を旅する友人たちが北側に位置するキッチンやホールに自由に出入りする。住まい手は家族のプライベート空間も確保しながら多くの人が集まり、助け合い語り合うことができる住まいの空間を創っている。

架構は合理的な金物使用での真壁構法。この地域だからこそ開放的に開くことができる真壁の魅力が活かされる。住宅は核家族のための家もあり、ただそれだけでなく核がなくなることでできる拡大家族のためのおおらかな家がある方が良い。

これからの住まいの明るい未来の可能性を見せてくれる、そんな魅力的な住宅である。

(三澤文子)



コミュニティの祈りのスペースは、風の抜ける心地よい空間となっている



連続するアマハジが建物外周を囲い、穏やかな集落を形成するフクギ・ガジュマルなどの防風林と石垣（蛇籠）は家を守りつつ生態系との緩衝帯である



集落を形成するフクギ・ガジュマルなどの防風林と石垣（蛇籠）は家を守りつつ生態系との緩衝帯である



宿り木のような「みんなのためのいえ」である



祈りの空間から懐の深いアマハジは、建物内外を繋ぐステージとしても機能



沖縄伝統赤瓦は地域特有の文化的景観を形成する